

(仮称)「道の駅 金太郎のふる里」整備事業(森の駅整備計画)

1 (仮称)「道の駅 金太郎のふる里」整備事業 実施状況

(1) 実施の状況

道の駅の地域連携機能の骨子として、未病戦略を意識した市民参加型プロジェクトを立ち上げ、平成 27 年度は関係者によるワーキングを開催し基本方針を定め、平成 28 年度は基本方針に基づき実証的取組を行う等、運営体制の確立に向けて活動しました。

(仮称)「道の駅 金太郎のふる里」運営検討プロジェクト
直売農家育成プロジェクト(農業者、JA、関連団体、市)

(基本方針)
主に自給的農家を対象に講習会等を実施し、直売農家への育成を行う。

(実証的取組) 28 年度
・野菜の栽培講習会(座学編)開催(7/30 45名参加)
・野菜の栽培講習会(実践編)開催(9/17 26名参加)



特産品開発プロジェクト(農業者、商工業者、関連団体、市)

(基本方針)
未病をコンセプトとした地産地消の商品開発を進める。

(実証的取組) 28 年度
・「おやき」のレシピ募集(7/1~8/10 12点応募)
・優秀作品を市産業祭で試験提供(11/6)



都市と農業との交流プロジェクト(農業者、観光協会、関連団体、市)

(基本方針)
道の駅を情報発信拠点として起点とし、点在する地域拠点を結び付ける観光ルートを構築する。

(実証的取組) 28 年度
・旅行代理店及びNPO団体とタイアップし、ざる菊鑑賞や里山ハーブ園でオシャレに過ごす観光モニターツアーを考案・開催(11/20 17名参加)



(2) 事業の効果

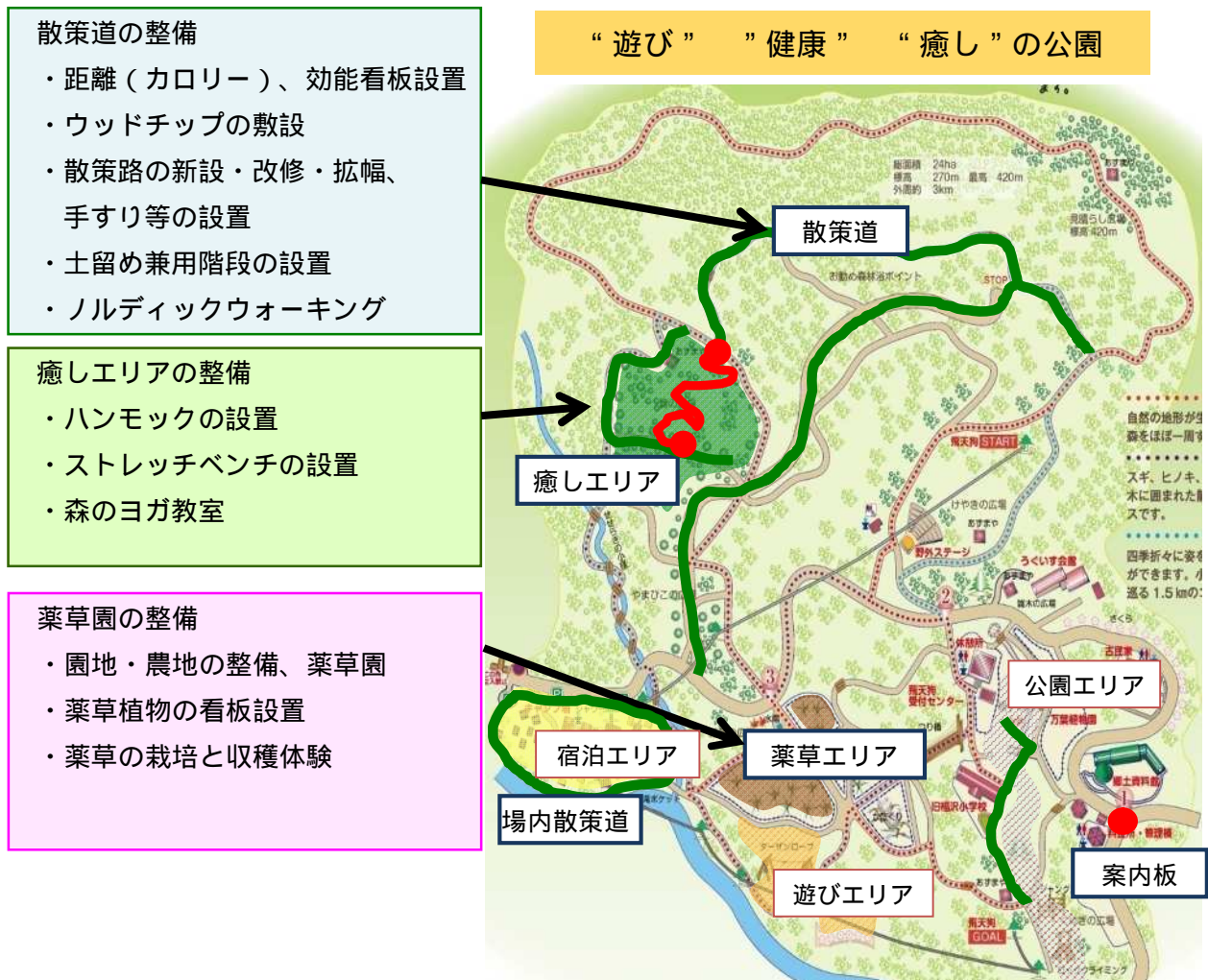
実証的取組を通じて、では自給的農家が直売農家へと転換するきっかけを作り、ではおやきを例に6次産業化の実現に向けた働きかけを市民に周知し、では都市住民が抱くツアーや地域に対するニーズの把握など、道の駅の運営体制を確立するための準備・検証を行うことができました。

今後は朝市の開催、体験農園ツアーなど引き続き企画を打ち出し、様々な課題を検証するとともに、各部会を道の駅開業後の実働を担う独立した組合へと発展させ、指定管理者と組合が一体となった運営体制を確立し、未病を改善する交流拠点となる道の駅を整備します。

2 丸太の森 森の駅整備計画

(1) 事業の実施状況

“遊び” “健康” “癒し” の公園を目指した今回の整備事業によって、「未病を改善するセンターゾーン」としての健康増進プログラムの拠点として新たな丸太の森に生まれ変わりました。



(2) 事業の効果

未病を改善するセンターゾーン（広町・大雄町地区）での健康増進プログラムを質的・量的に向上することを目的に、丸太の森の改善・改修整備を実施しました。

森林公園として、本来の地形を生かしたウォーキングプログラムでは、快適さを追求した散策道を目指して、両側に丸太を敷設し、ウッドチップを敷き詰めることで足腰にやさしいものとなっています。

癒しのエリアは、ストレッチベンチを設置し、腰掛けることで街の雑踏から離れて、風の音、鳥の鳴き声、森林の香りを肌で感じる空間となりました。

薬草のエリアでは、季節に応じて収穫を行い、その薬草を使った料理で子どもから大人まで楽しむことができる活動エリアとしての整備を行いました。

今後は、総合案内所の案内板によって園内の見どころを動画などの様々な画像や音声を利用して来園者に対するサービス支援に努めるとともに、未病の普及啓発を行います。そして、魅力ある自主事業の実施により丸太の森を「未病を改善する」ことの重要な拠点施設であることをPRして来園者の増加を図っていきます。